

—獣医療とコミュニケーション (XXI)—

農場 HACCP と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン

犬丸憲之[†] (犬丸獣医科クリニック院長, 九州獣医師 HACCP 研究会)

堀北哲也 (日本大学生物資源科学部獣医学科獣医産業動物臨床学研究室)



犬丸憲之



堀北哲也

HACCP (ハサップ, Hazard Analysis and Critical Control Point) とは, 製品の品質や安全を担保する作業工程管理の手法の一つである。その製品を生産する作業工程にどのような危害要因があるかを分析 (危害分析, Hazard Analysis) し, その危害要因を除去するために工程の管理 (重要管理点, Critical Control Point) を定め実施し記録する [1]。と場や食鳥処理場を含む食品等事業者に対して HACCP を用いた衛生管理が制度化されている [2]。さらに畜産物を生産する農場に対応した農場 HACCP 認証制度も導入されている [3, 4]。本稿では, 農場 HACCP についてコミュニケーションという視点で長年農場 HACCP に取り組んでいる犬丸憲之氏に話を伺った。以下, 対談形式で紹介する。

堀北: まず犬丸さんの獣医師としての経歴をお伺いします。

犬丸: 昭和 44 (1969) 年に大学を卒業し京都府の南丹酪農組合 (組合員約 100 戸, 当時) に就職し, 診療や乳質改善指導などの業務にあたりました。乳房炎軟膏に青色色素が添加され, 抗生物質使用後は乳の出荷制限が始まった頃です。昭和 47 年に同組合を退職して福岡県で開業し, 昭和 57 年に 3 名の獣医師で筑豊総合家畜診療所を設立しました。この頃の仕事を通して, 生産者に対してこちらが悩みを打ち明けると相手も同じように悩んでいることを打ち明けてくれ, コ

ミュニケーションは双方向であると感じました。それがコミュニケーションの入口でした。農場や生産者によって問題点や悩みは異なります。獣医師としてそれらの問題の解決策を提案しますが, まずは日々の診療で, 疾病を治したり不受胎牛を受胎させたりして生産者の信頼を得ることが重要です。信頼が得られれば, 生産者と意見交換をし, 疾病の予防対策や繁殖成績改善の方策の提案も受け入れられやすいものです。しかし, 十分なコンセンサスが合ったかどうかいまだに疑問を抱えていることもあります。生産者の納得が得られなければこちらの提案は受け入れられません。農場によって問題は異なります。過去のデータを分析して問題点を明らかにし, データを基にした原因の追究とそれに応じた対策を練ります。解決すべき問題は複数あることも多く, 問題も対策も優先順位をつけなければなりません。データに基づいた問題分析と対策, そして生産者の意向も聞いたうえでの優先順位の決定, これらを実践することにより生産者のコンセンサスが得られます。

堀北: 犬丸さんはいつから農場 HACCP に関わっているのですか。

犬丸: 昭和 47 年にヨーロッパ旅行をした時にドイツの農場で無殺菌パックの生乳に出会い, 殺菌しなくても飲めるという農場の衛生レベルの高さに衝撃を受けました。美味しいことはもちろん衛生的にも優れた牛乳を消費者に届けたいとの思いを強くしました。そんな折, 平成 9 年に初めて生産農場における HACCP セミナーを受講し, 衛生的に牛乳を生産するためには農場 HACCP が必要であることを痛感しました。平成 14 年には日本 HACCP トレーニングセンター主催の農場 HACCP ワークショップを受講し, 平成 17 年に九州獣医師 HACCP 研究会を有志で設立しました。

[†] 連絡責任者: 犬丸憲之 (犬丸獣医科クリニック院長, 九州獣医師 HACCP 研究会)

〒 820-0101 飯塚市網分 671-26 E-mail: agricorn@ind.bbip.jp

それ以降、家畜の健康と食の安全のフードチェーンのためにさまざまな職域の獣医師と共に、農場 HACCP を構築したり HACCP 審査員として活動したりして農場 HACCP の普及を目指しています。

堀北：農場 HACCP を構築するに当たり、まず最初に「現状作業分析シート」を作成しますが、この時、留意していることは何でしょうか。

犬丸：理想論を語る絵に描いた餅のような HACCP システムであってはなりません。農場 HACCP の構築は、農場の現状がよくても悪くてもまずはその実態を知ることから始まります。そのための「現状作業分析シート」です。重要なのは、現場をよく知る従業員が、現状のありのままをこの分析シートに表現することです。現在は飼養衛生管理基準に準拠した飼養管理が行われていますが、やはり現場はこの基準から逸脱したことが行われていることもあります。どんなことでもいいので従業員に日常の作業に関わる手順や問題点について忌憚なく話してもらう必要があります。農場スタッフたちが話したことは全て書き上げるようにしています。そこを原点にして衛生管理目標を設定し、衛生レベルの向上を目指します。

堀北：従業員に忌憚なく話してもらうために、心がけていることはありますか。

犬丸：できるだけオープンな雰囲気になるように心がけています。こわもてな物言いや権威主義の立場をふりかざすのではなく、フラットな関係で、どんなことでもいいので、今やっていることを話してもらいます。この話し合いは時間をかけています。現状がどうかあるかが「宝」であり、そこから改善点が見えてくるからです。重要なのは、現場をよく知る従業員が現状作業分析シートを作ることです。どんなことでもいいので従業員に日常の作業に関わる手順や問題点について話してもらう必要があります。その現状から、衛生管理目標を設定し衛生レベルの向上を目指します。

堀北：農場 HACCP の認証基準 [4] は7つの章からなっています (表) が、農場 HACCP とコミュニケーションとはどういう関係があるのでしょうか。

犬丸：コミュニケーションなくして農場 HACCP は成立しえません。良好なコミュニケーションを必要とする関係は、生産者と獣医師だけではなく、生産者と出入り業者、経営者とスタッフなど多岐にわたります。会議も頻繁に開催します。会議で大切なことは相手の意見をすぐに否定しないことです。まず相手の意見を受け止める。意見が一致するときはいいのですが、意見が一致しないときは相手が納得するように議事を進

表 農場 HACCP 認証に必要な事項

章	事項	内容
1	範囲、引用文書、用語	1) 範囲 2) 引用文書 3) 用語
2	経営者の責任	1) 経営者のコミットメント(誓約) 2) HACCP チーム責任者及びチーム員の任命と責任・権限 3) 外部コミュニケーション 4) 内部コミュニケーション 5) 特定事項への備え 6) 衛生管理システムの見直し 7) 人、設備等の資源の提供と管理
3	危害要因分析の準備	1) 素畜等の原材料及び資材 2) 家畜・畜産物の特性 3) 意図する用途 4) 工程一覧図(フローダイアグラム)及び現状作業、生産環境の明確化と現場での確認
4	一般衛生管理プログラムの確立と HACCP 計画の作成	1) 一般衛生管理プログラムの確立 2) 危害要因分析 3) HACCP 計画の作成
5	教育・訓練	1) 教育・訓練 2) 教育・訓練プログラム
6	評価、改善及び衛生管理システムの更新	1) 内部検証 2) 情報の分析 3) 衛生管理システムの更新
7	衛生管理文書リスト及び文書、記録に関する要求事項	1) 衛生管理文書リスト 2) 文書、記録に関する要求事項

めることが必要です。またコーディネーター(進行役)が順調に会議を進めているときほど注意が必要です。テンポよく話を進めているときほど、経営者や従業員など参加者が置いて行かれないように、皆の気持ちをとらえつつ話し合いを進める必要があります。それには、参加者に適宜質問を投げかけたり、参加者のノンバーバル(非言語的な態度)に注意したりします。ただ形を整えるための HACCP 会議では、農場 HACCP が途中で頓挫することもありますので、参加者の気持ちや考えをしっかりと把握することが重要です。

堀北：認証基準第2章に「経営者のコミットメント」があります。農場 HACCP は構築するときも、運用するときも多大なる労力や時間を要します。そのため最初に農場 HACCP 導入に対する経営者の強い意志を確認する必要がありますが、その時のポイントは何でしょうか。

犬丸：まず、経営者が何を求めているかを明らかにすることが重要です。さらにその求めていることが、一日単位なのか、1カ月単位なのか、数年単位なのかと

いった時間軸を考慮することも忘れてはなりません。経営者の求めている目標が明らかになり、それに向けた方針が決まり、その方針に基づいて管理目標を具体化し、農場 HACCP のシステムに落とし込んでいきます。経営者の中には発言が控えめな方もいます。その時は、こちらから「どうお考えですか」などの開放型質問で問いかけ、考えを聞きだします。

堀北：農場 HACCP 認証基準第 2 章「経営者の責任」には「外部コミュニケーション」や「内部コミュニケーション」という項がありますがこれはどういうことでしょうか。

犬丸：外部コミュニケーションでいう外部とは、家畜や飼料などの供給者、出荷先、消費者、規制当局のことをいい、同章では外部者と効果的なコミュニケーションを行うこととされています。具体的には、まず外部者に農場 HACCP の実施を周知し、そのうえで外部者の情報と農場の情報を双方向で共有し、共有した情報は記録します。内部コミュニケーションは、農場という組織内の経営者、場長、スタッフ間のコミュニケーションをいいますが、日常業務や HACCP 会議において、職制の上下にとらわれることなく気づいたことや意見を言える関係性や雰囲気を作ることが重要です。また、データだけではなく情報も共有します。情報とはデータを分析したり解釈したりしたものです。この時データを情報にするスキルが求められます。また、情報を考察することも重要です。例えば、消毒を実施しているのに床や壁のスワブ検査（ふき取りによる細菌培養）の結果が悪く清浄度が低いとき、なぜそうってしまったか理由を考えなければなりません。消毒薬の種類、希釈倍率、消毒や消毒後の検査のタイミング、マニュアル通りに実施しているか、あるいはマニュアルを変更する必要があるのかなど、検討すべきことが多々生じます。こういった疑問を互いに確認し共有するコミュニケーションが重要で、そのための関係性が必要となります。

農場 HACCP の導入により開催される HACCP 会議では、毎日のミーティングや伝言では気づかないことがシステムティックに共有できます。データ分析結果、新しい情報、教育訓練の評価、内部監査の指摘ポイントなどは経営者だけが知るのではなく、従業員も把握することが重要です。そのためパソコン内の HACCP 文書は、全てプリントアウトしたうえで分かりやすくファイリングして保管し、必要なときはいつでも従業員が閲覧できるようにします。手洗いや長靴の消毒方法などは写真や図を駆使して、分かりやすい見える化をはかります。また、従業員自身も経営者と共に農場 HACCP 研修会に参加し HACCP の概念を

共通認識することが重要です。

堀北：農場 HACCP を導入した農場の衛生レベルはやはり向上するのでしょうか。また生産性への影響はどうでしょうか。

犬丸：農場の衛生レベルは向上します。衛生レベルが向上することにより生産性も上がります。平成 15 年に農場 HACCP を導入した A 肥育牧場では、牛舎 1 棟ごとのオールイン・オールアウト、出荷後の清掃・水洗・乾燥、発泡消毒などを取り決めて実施しています。発泡消毒の前後で牛舎環境中の細菌数のモニタリング検査をし、消毒の効果を確認しています。数値で消毒作業の適否が示されることで従業員のモチベーションや消毒作業の徹底につながっています。こういった実践後、呼吸器疾患や消化器疾患が激減し、増体率や肉の格付けも向上して経営が改善されました。

また B 養鶏場（採卵）では、外国人（ベトナム人）を雇用したことから、言葉の壁に直面し、HACCP の教育訓練、すなわち CCP に関連した死鶏、滞留卵、破卵、汚染卵の取り扱いについて苦労していました。しかし、スマートフォンの翻訳機能を利用したコミュニケーションにより、誤解のない言い方で正確に伝わり、飼養衛生管理基準の概念も伝授することができました。

堀北：家畜の健康と食の安全のフードチェーン、すなわち農場から食卓までの畜産物の安全性が HACCP を軸に構築されつつあります。最後に今後の展望についてお聞かせいただけますか。

犬丸：令和 2 年に改正と畜場法が施行され、と場では HACCP を用いた衛生管理が義務化されました。また、食品 HACCP は令和 3 年に義務化されました。一方、農場 HACCP は義務化されていないものの令和 3 年に農場 HACCP 認証基準や審査基準が改正されました。これで farm to table の食の安全ラインナップが出来上がりました。すなわち、HACCP を軸として、農場の家畜から消費者の手元の畜産物に至るまでの安全性にアプローチするフードチェーンが構築されました。換言すると、安全な畜産物を通して生産者と消費者がつながりました。消費者は、農場の大小に関わらず食品の安全を求めています。過去に発生した病原性大腸菌 O-157 による集団食中毒や BSE など、食品の安全を脅かす事故や事件の経験から、食品の安全性を確保するためには、農場、と場、食品工場、流通、販売そして消費者の食卓までの一貫した衛生管理が必要との考えのもと、それぞれの段階で取組が行われています。

また、農場 HACCP はワンヘルスにも貢献するシス

テムです。農場 HACCP を構築し、運用の PDCA サイクルを回す中で、導入から出荷までの飼養衛生管理基準の遵守を見える化し、動物用抗菌薬を使用しない健康な家畜・畜産物を出荷することで畜産の生産性と食品安全を向上させることができます。農場 HACCP システムの認証農場の増加がワンヘルスアプローチにつながり、さらには畜産物の輸出にも寄与します。

農場 HACCP は、農場での生産工程をしっかりと管理することで、食品となる畜産物の安全性を確保する有効なシステムです。しかし、臨床獣医師が農場 HACCP に取り組んだり、研修会に参加したり、農場 HACCP を新たな農場に推進したりするには時間的にも困難さがあります。農場 HACCP を専門とする獣医師が望まれています。食品 HACCP は義務化されたが、農場 HACCP は義務化されていません。わが国で一本化された食の安全・フードチェーンアプローチの本当のシステムを構築し運用するためにも、食品 HACCP と同様に農場 HACCP 認証農場を増やすための予算や人材の確保を願わずにはられません。

堀北：犬丸さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。

参 考 文 献

- [1] 日本規格協会グループ：HACCP とは、<https://www.jsa.or.jp/iso22000sp/HACCPabout/>(参照 2023-10-19)
- [2] 厚生労働省：HACCP に沿った衛生管理の制度化について、https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/haccp/index.html (参照 2023-10-19)
- [3] 中央畜産会衛生指導部（農場 HACCP 認証協議会事務局）：農場 HACCP 認証制度について、<https://jlia-farm-haccp.jp/> (参照 2023-10-19)
- [4] 岩田祐之：農場 HACCP, 獣医衛生学, 岩田祐之, 押田敏雄, 酒井健夫ら編, 第 2 版, 297-303, 文永堂出版, 東京 (2012)
- [5] 農林水産省消費安全局：畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場 HACCP 認証基準）,https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_haccp/attach/pdf/index-21.pdf (参照 2023-10-19)